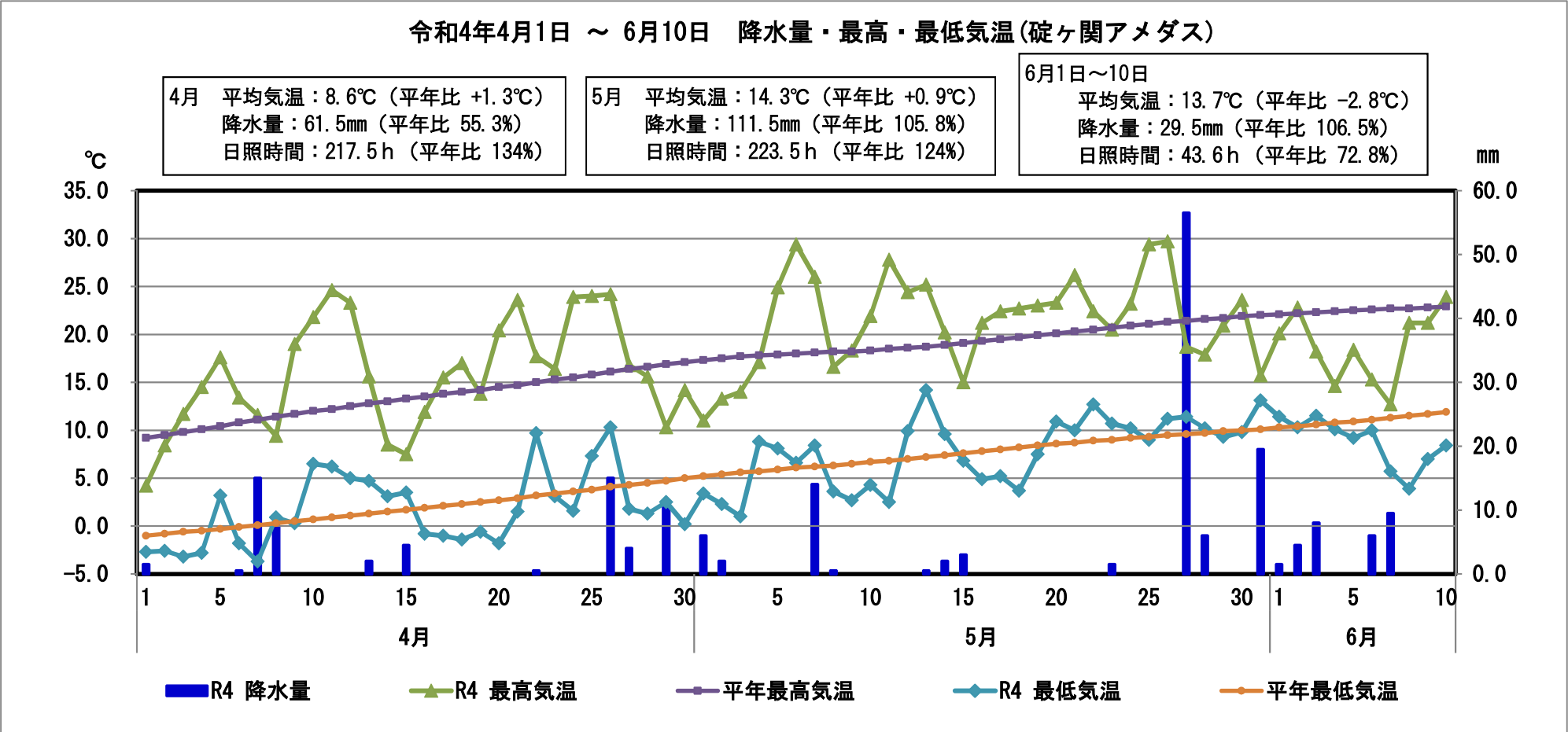


- ①ハダニ類が発生している園地が見られています。園地の予察を行い発生が見られたら早めの防除に努めましょう。
- ②6月末までの薬剤散布では、降雨前散布、前回散布から10日以内の散布を心がけましょう。また、散布ムラのないようにゆっくりたっぷり丁寧に散布し、SSの事故などには十分注意しましょう。
- ③ハシゴでの作業が多くなります。農作業中の事故などには十分注意するようにしましょう。
- ④4月中旬頃の低温、開花期間中の強風や乾燥などが原因と考えられるカラマツが確認されています。良品安定生産のためにも新梢停止期（7月上旬頃）までに適正着果となるよう計画的に摘果を行いましょう。
- ⑤有袋栽培に取り組むことで、ツル割れの減少、着色の向上、災害リスクの低減などにより商品化率が向上します。積極的に有袋栽培に取り組みましょう。

気象の状況



りんごの肥大状況

・開花日が平年より早かったこと、また5月の平均気温が高かったことから、6月10日現在の肥大状況は、各品種とも平年を大きく上回っています。

令和4年6月10日現在・りんご研究所の数値は11日現在(cm)

調査地点名	つがる		ジョナ		王林		ふじ	
	本年	前年	本年	前年	本年	前年	本年	前年
森山	3.4	3.2	3.3	3.5	3.2	3.0	2.7	2.7
駒木	2.5	2.8	2.5	2.5	2.7	2.6	2.3	2.2
古懸	2.6	2.7	2.8	2.7	2.5	2.6	2.3	2.4
りんご研究所	3.5	3.4	—	—	—	—	3.3	3.2
	平年 2.9		平年 2.8		—		平年 2.6	

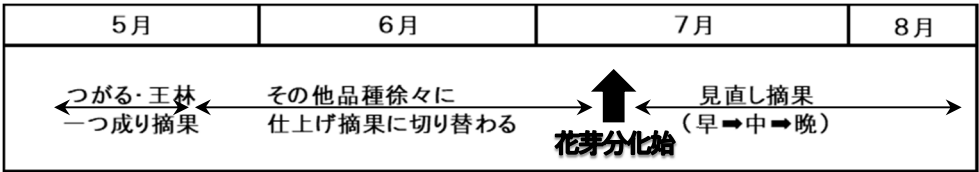
摘果作業

- 計画的に作業を実施し、一つ成り摘果(予備摘果)は6月上中旬頃までに終わるようにし、随時、仕上げ摘果へ切り替えるようにしましょう。
- ・落花20日後頃からサビなどがわかりやすくなってきますので、果実品質をよく確認しながら、7月上旬頃を目標に仕上げていきましょう。
 - ・着果量が十分確保出来る園地では、最終的に成らせ過ぎとならないよう注意しましょう。

◆ポイント◆

新梢の伸びが止まり、葉の枚数が決まるとその年に作られる養分量が決まります。りんごは7月に入ると、果実肥大、花芽形成、樹体の維持と消費する養分量が増えますが、着果量が多いと、花芽形成や樹体の維持のための養分量が足りなくなり、翌年の花芽が少なくなったり、樹勢が弱まるなど弊害が出てきます。

そのため、7月上旬を目標に仕上げ摘果を終え、その後、随時見直し摘果を行い、適正着果にするよう努めましょう！

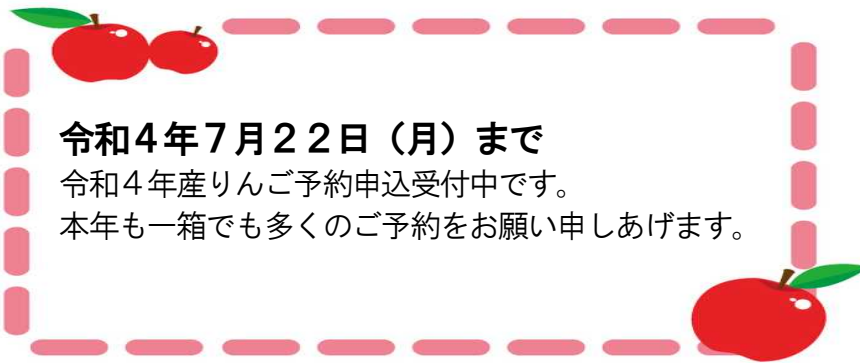


開花結実調査

JA管内の一部地域では、5月の開花日から満開日にかけて高温と乾燥、強風の影響により弱い花そうを中心にカラマツが確認されています。ふじの適正着果率は25%(4頂芽に1果)のため、平年並の着果量は確保出来ると考えられますが、樹や園地におけるバラつきも大きいため、今後の摘果作業では、品種別の標準的な着果程度を目安に、サビなどの障害がなく、形の良い果実をよく見極めながら実施しましょう。

品種	区分		開花そう率 ①	結実そう率②		開花結実率 ④	中心花結実率 ⑤
					うち中心花結実 そう率③		
つがる	大鰐地区		91.0	84.0	76.3	92.3	83.9
	JA管内	本年	92.6	90.9	79.7	98.2	86.1
		前年	89.8	88.9	76.7	98.9	85.3
		平年	84.3	81.3	76.8	96.5	91.2
		平年差	8.3	9.6	2.9	1.7	-5.1
ジョナ	大鰐地区		94.7	92.3	84.0	97.5	88.7
	JA管内	本年	91.8	89.7	71.4	97.7	77.8
		前年	87.0	84.4	66.4	96.9	76.3
		平年	82.1	79.3	70.3	96.6	86.2
		平年差	9.7	10.4	1.1	1.1	-8.4
王林	大鰐地区		91.7	81.7	75.3	89.1	82.2
	JA管内	本年	85.1	82.0	72.2	96.4	84.8
		前年	85.3	79.1	60.5	92.7	70.9
		平年	78.7	74.8	68.6	95.1	87.9
		平年差	6.4	7.2	3.6	1.3	-3.1
ふじ	大鰐地区		85.0	77.3	66.7	91.0	78.4
	JA管内	本年	86.0	81.4	67.7	94.7	78.7
		前年	84.4	78.6	57.6	93.2	68.2
		平年	78.3	73.5	65.4	94.0	83.7
		平年差	7.7	7.9	2.3	0.7	-5.0

開花花そう率 ①：頂芽（葉芽含む）のうち、花が咲いた頂芽％
結実花そう率 ②：頂芽（葉芽含む）のうち、結実（中心花、側花両方）した頂芽％
中心花結実花そう率 ③：頂芽（葉芽含む）のうち、中心花が結実した頂芽％
開花結実率 ④：開花した頂芽のうち、中心花、側花両方結実した頂芽％
中心花結実率 ⑤：開花した頂芽のうち、中心花が結実した頂芽％



令和4年7月22日（月）まで
令和4年産りんご予約申込受付中です。
本年も一箱でも多くのご予約をお願い申し上げます。

薬剤散布

- ①散布時期が前倒しになっている場合は、特別散布を行い7月初めの散布が7月上旬になるよう調整するようにしましょう。
- ②ハダニ類が発生している園地が見られます。園地の予察を行い発生が見られたら、早めの防除に努めましょう。
- また、殺ダニ剤の選択でお困りの方は、お気軽に営農係へご相談ください。園地へうかがいます。

〇アブラムシ対策

アブラムシ防除剤が入らない時期にアブラムシが発生した場合は、ウララDF4,000 倍又はコルト顆粒 6,000 倍又はトランスフォームF 4,000 倍のいずれかを散布する。

〇腐らん病対策

- 見つけ次第切り取り処分するか、泥巻や削り取り塗布する。
- 果柄感染が心配などころでは、落花 20～40 日頃、ラピライト水和剤を基準薬剤に選択するか、トップジン M 水和剤またはベンレート散布する（抵抗性リスク回避のため、果柄感染防止ではいずれか 1 回まで）。

回数 散布量	散布 時期	散布日 例①	散布日 例②	対象病害虫	基準薬剤			
					薬剤名と混用順序	倍数	1,000ℓ当	収穫前 日数
5 420ℓ以上	ふじの 落花20日後 (6月上旬)	5月29日	6月3日	黒星病、斑点落葉病 すす点・すす斑病 うどんこ病、腐らん病 黒点病、ハダニ類 クワコカイガラ アブラムシ、キンモン	展着剤 ジマンダイセン水和剤 スプラサイド水和剤 カルマツチ クレフノン	600 1,500 770 100	1.67kg×1 667g×1 1.3kg×1 10kg×1	30日前 30日前 — —
6 420ℓ以上	特別散布	6月6日	—	散布が前倒しとなり、生態とズレが生じた場合は、 チオノックF500倍などの特別散布により調整する。				
7 500ℓ	ふじの 落花30日後 (6月中旬)	6月13日		斑点落葉病、黒星病 すす点・すす斑病、黒点病 腐らん病、炭そ病、褐斑病 キンモン、シャクトリムシ モモンシクイガ	展着剤 ジマンダイセン水和剤 ダイアジノン水和剤 カルマツチ クレフノン	600 1,000 770 100	1.67kg×1 500g×2 1.3kg×1 10kg×1	30日前 30日前 — —
8 500ℓ	ふじの 落花40日後 (6月下旬)	6月23日		斑点落葉病、黒星病 すす点・すす斑病、褐斑病 黒点病、腐らん病、炭そ病 ハダニ類、モモンシクイガ キンモン、キンモン	無ボルドー方式 展着剤 オキシンドーWSB モスピラン顆粒水溶剤 カルマツチ	1,200 4,000 770	835g×1 250g×1 1.3kg×1	14日前 前日 —
9 500ℓ	7月初め (7月上旬)	7月3日		斑点落葉病、黒星病 すす点・すす斑病 炭そ病、褐斑病、ハダニ類 モモンシクイガ、キンモン キンモン、シャクトリムシ	展着剤 オキシンドーWSB アーデントF エコマイト顆粒水和剤 カルマツチ	1,200 2,000 2,000 770	835g×1 250ml×2 250g×2 1.3kg×1	14日前 前日 7日前 —
10 500ℓ	7年半ば (7月上旬)	7月17日		斑点落葉病、黒星病 すす点・すす斑病、腐らん病 炭そ病、褐斑病、ハダニ類 モモンシクイガ、リンゴコガモン キンモン、キンモン	展着剤 オキシンドーWSB トップジンM水和剤 エクシレルSE	1,200 1,500 5,000	835g×1 333g×2 200ml×1	14日前 前日 前日

● 殺ダニ剤は発生予察を行い、効果のある薬剤を使用しましょう。

薬剤名	倍数	収穫前 日数	年間使 用回数	ナミ ハダニ	リンゴ ハダニ	ボルドー 混用	殺 成虫	殺 卵
コロマイト乳剤	1,000	前日	1回	○	○	○	○	○
マイトコーネF	1,000	前日	1回	○	×	×	○	○
エコマイト顆粒	2,000	7日	1回	○	○	×	×	○
オマイト水和剤	750	3日	1回	○	○	×	×	○
ピラニカ水和剤	2,000	14日	1回	×	○	○	○	○
ダニコングF	2,000	前日	1回	×	○	×	○	○
スターマイトF	2,000	前日	1回	×	○	×	○	○
パロックF	2,000	14日	2回	×	○	×	×	○
ダニオーテF	2,000	前日	1回	○	○	×	○	○
アカリタッチ乳剤	2,000	前日	—	○	○	○	○	×

※ コロマイト乳剤は7月以降使用する。 ※ オマイト水和剤は8月以降使用する。
※ オマイト水和剤は、高温干ばつ時や樹勢の弱い樹などで薬害の恐れがあります（黄変落葉）。
※ アカリタッチ乳剤は、卵には効果がないため、他剤との体系処理などを考慮し使用する。
※ ダニオーテFは、銅剤（オキシンドー、ICボルドーなど）の散布10日前までに使用する。
また、銅剤を散布した後はダニオーテFを使用しない。

〇ボルドー散布の目安

- ①毛振期以降
②横径 25mm 以上
③6 月 20 日以降
④落花 25 日以降

エコマイトは、成虫に対して効果はないが、卵～若虫に効果が高く、また次世代抑制効果（産卵ふ化抑制）が高い剤です。
発生初期に散布することで長期間抑制しますので、発生に応じて6月下旬～7月上旬頃までに散布するようにしましょう。